

令和6年度中井町地域懇談会 開催結果

日 時	令和7年3月23日(日)午後1時30分～午後3時05分
場 所	井ノ口公民館 2階 研修室
テーマ	新たな生涯学習施設の利活用と町ぐるみの人材育成 —館から環へ—縮絨のまちづくりとこれからの人づくり
参加者	11人

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 町長より町の生涯学習施設の検討状況、今後の展望等について説明(説明資料参照)
4. 質疑応答
5. 閉会

No.	質疑内容	回答内容
1	おおよそで構わないので何ができるのか絵がないのか。	今回のプロポーザルは建築家への影響を与えないために図ではなく、文章で表現している。 設計者選定に関連し、決まった提案も今は示すことができないが、4月15日に内容を示すこととなっている。 現在の郷土資料館のところに3,000㎡の建物ができる。 改善センターは1,300㎡くらいである。1階にホール、2階に会議室等ができる構想である。 500人収容のホールを作ろうとしている。構造は決まっていないが、予算との兼ね合いも影響する。
2	スポーツもできるのか。 どのようなものか。 活性化するにはイベント係みたいな職員を置かないといけないのでは。	ホールについては現在活動中の団体が活動できるようなものとしたい。 わいがやサロンでも話が出たが、イスの出し入れを含めたプランを考えている。 オープンな形の構成となる。 イベントなどどのように活用したいかを今後取り上げ人材育成していく。 亡くなった副町長から、そうした利活用を行う人を、「しらさぎ先生」と呼んではという発案を聞いたことがあり、比奈窪56プランと合わせて遺言として受け止めている。
3	郷土資料館について、そんなに大きくなく、小さくていいのではないか。	岡山県に先日視察に行ってきた。 土器が通路等に置いてあるなど、施設内にそういった仕掛けができる可能性もあると思う。

		常設展や企画展で、中井町の郷土資料である農機具などを来館者がいつでも見られるような配置も考えられる。
4	井ノ口公民館を利用している。 利用料について、(文化団体連絡協議会等)団体に入っている、入っていないによって金額が違うが、全部一緒にいいのではないか。 分ける必要がないと思う。高齢者が外に出るきっかけを阻害する要因の1つではないか。	施設利用に関しては、行改大綱の一環で受益者負担の原則を設定した。 その時に適正な価格へと設定したが、それでも低く抑えていると思うが、意見を踏まえ考える必要のあるとも感じる。
5	500人の収容とのことだが、駐車場はどうするのか。 高齢者対策は。	駐車場は、建設予定地の横の現在田んぼのところを駐車場に考えている。 まちづくりの戦略として交通網の動かし方も考えなければいけないと思っている。 既存のバス路線の維持も必要である。今回は、特に中村下・上地区の活性化を促したいこともあるが、井ノ口と中村の行き来も考慮しなければならない。
6	イベント開催時の駐車場を充実してほしい。 美・緑なかいフェスティバルみたいに。	移動手段について、総ぐるみで対応しなければならいと思っている。 バスの本数が減る休日も含めて。
7	設計プロポーザルについて、なぜそのようにしたのか伺いたい。 わいがやサロンの意見がどう入っていくのか、広報等で示してほしい。 実際いつ頃完成するのか。	平成28年の基本構想は町民の意見が入っていないため、町民参加型にしたかったので、設計の段階から町民の声を参入した。 有名設計者や大手の建築事務所に頼む方法もあったかもしれないが、町のパートナーとなる設計チームを選びたかった。 設計者とわいがやサロンの接点の機会を作っていきたい。 町広報へはエッセンスしか載せられないかもしれないが努力していく。 令和6年度は設計業者を選定、令和7年度は基本設計と実施設計を行う。 8年度9年度で工事を行う。 その後に改善センターを取り壊す。令和10年中に 56 構想が完成する予定である。
8	井ノ口から中村へ行くバスの便が減っている。 大きなイベント時はシャトルバスを出すべきである。 本来は、井ノ口に建ててほしかったが。	近藤家については生涯学習参与を通して、すでに調査を行った経緯もあり、文化的歴史的な価値をいろいろ考えている。 私有物であること、移築の必要性等、どこまでできるか、

	郷土資料館の規模は縮小をとの意見があったが、私は逆に縮小する必要はないと思う。 井ノ口には近藤家という古民家があり子孫は隣に住んでいる。 古民家としては瀬戸屋敷より大きく、保存に力を入れるべきではないか。 農機具とかは古民家へ、土器とかは生涯学習施設へというやり方もあるのではないか。	やるかなどを考える必要がある。 江戸時代の刃物を1つ磨くのに数十万円かかるとの算出もある。 常設、企画展、臨時展など、方法も模索できる。
9	生涯学習センターと郷土資料館は異質なものであり、別々の別棟にした方がよいと思う。	静かに学習したいという人もあろうし、おしゃべりがしたいと思う人もある。 壁1つを隔てることで騒音を区別できる可能性もある。 1つの中にあっても静寂と動を仕分けて管理することができ、両方が1か所にあるそういったメリットを作りたい。 井ノ口公民館や境コミュニティ等も連携した中で、取り組みを推進したい。 10年前の調査だが、郷土資料館に行ったことがある人は2%だったが、この数字が改善できることも想定できる。
10	外国人の方にも使いやすい施設であってほしい。	人口の5%が外国籍の人となっている。 わいがやサロンにも参加した人がいる。 自治会に入会する外国籍の人も出ている。 担い手を育成していかなければならない。 もちろん意見を視野に入れていく。